

<高付加価値型農業を実践している事例>

## ○トキも知っていた「特別栽培米を育む有機の里」

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	長野県下高井郡 <sup>きしまだいらむら</sup> 木島平村 <sup>くらさわ</sup> 倉沢				
協定面積 12.4ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地	
	水稲				
交付金額 187万円	個人配分			0%	
	共同取組活動 （100%）	農業生産活動費（多面的機能増進活動）			17%
		農業用施設維持管理費（施設整備）			78%
		農地維持管理費			1%
		事務委託費			1%
		役員報酬（役員8名）			1%
会議費			1%		
需用費			1%		
協定参加者	農業者26人	農業生産法人1	その他法人1	開始：平成16年度	

### 2. 取組に至る経緯

倉沢集落は、昭和51年に基盤整備が終了した水田地帯のため、現在では農業用施設の老朽化等により、集落内の所々で補修をしなければならない状況になってきている。また、湧水量が多く湧水の心配がない半面、湧水が用水路の下の地盤を流亡させて水路が傾いてしまったり、ほ場によっては田面が乾かなかったりする問題もある。このため、水路改修等農業用施設整備に重点的に交付金を活用してきた。

古くから良品質米の生産地として定評があり、このブランドを更に発展させるべく、化学肥料や化学合成農薬を削減した高品質の「特別栽培米」に取組むとともに、これらを牽引する法人組織も育ってきている。

### 3. 取組の内容及び効果

- ①高付加価値型農業の実践（生産性・収益性の向上）  
特別栽培米（化学肥料及び化学合成農薬削減）への取組み
- ②農業生産条件の強化（農業用施設改修）  
老朽化した用排水路の改修 計画BF400型 L=418m
- ③協定農用地の拡大（26a増）



【集落に飛来したトキ】



【厳選木島平米 村長の太鼓判】

**【集落の将来像】**

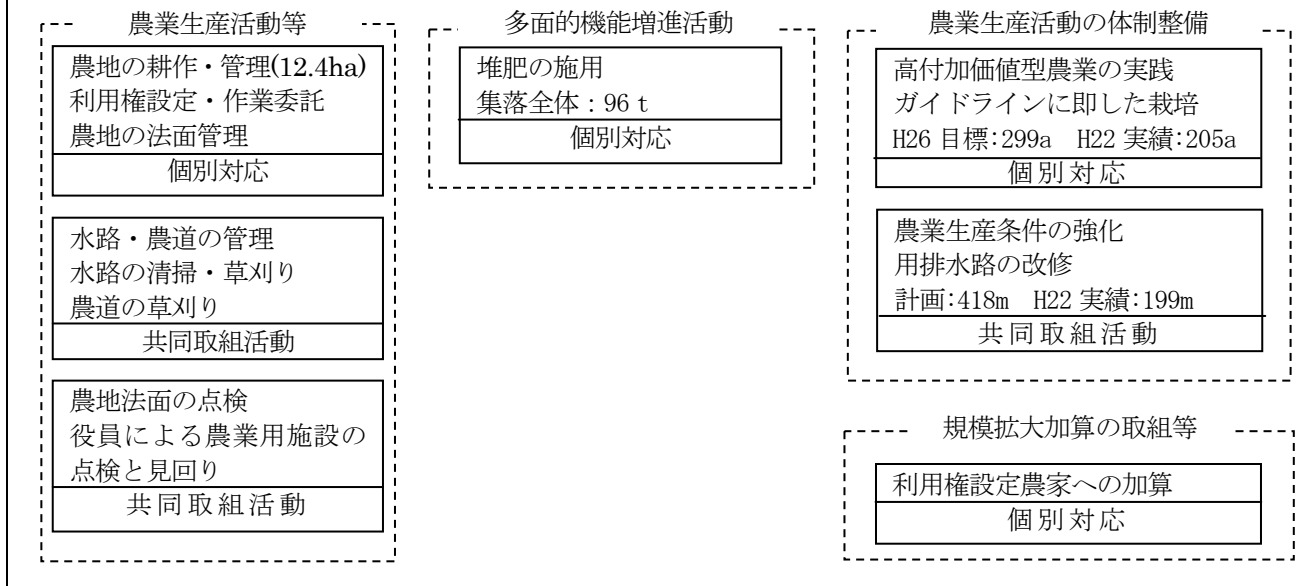
倉沢集落の安定的な湧水と清流は、米の生産地として適している。この生産基盤を維持するため、将来にわたって協定農用地の保全と耕作管理に努める。また、豊富な水源を活かした良質な米づくりと高品質化に取組み、優良生産地のブランド化を図るとともに、水源涵養等農地の多面的機能増進を図るため関係者が協働して取組む。



**【将来像を実現するための活動目標】**

協定農用地の拡大と協定区域内農用地の適切な耕作管理に努める。農業用施設整備による生産条件の強化を進めるとともに、堆肥の施用による持続可能な農業生産と高付加価値型農業の実践ほ場の拡大を図る。

**【活動内容】**



**4. 今後の課題等**

倉沢集落では、農業用施設の老朽化が課題だが、村で推進している「有機の里づくり」の取組みと連動し、多面的機能の増進と特別栽培（高付加価値）米の面積拡大を図ることで生産意欲を高め、相乗効果として共同取組活動を通じた農業用施設の維持・管理の向上に繋げている。

有機の里づくりとは、これまで農地に有効に利用されていなかった牛糞ときのご厩培地からなる有機質資材の施用による土づくりの徹底と、水稻をはじめ主要農作物の「村安全・安心農産物栽培基準」に基づく、化学肥料・化学合成農薬の削減による持続可能な循環型農業の推進と豊かな自然環境づくりの取組みであり、H21年3月には、佐渡から渡ってきたトキが当集落へ飛来して一週間程滞在し、大きな話題となった。

特別栽培米の作付面積は、第2期対策導入前のH16年には村内中山間地域で10haであったものが、H22年には43haに拡大しており、同年の全村栽培面積90haのほぼ5割を占めている。その中でも倉沢集落は、拡大率が比較的高く、H16年時点で46aであったものが、H22年には205aにまで拡大している。今後はH26年までに299aまで拡大させる目標を設定しており、高付加価値農業の実践と生産基盤強化の取組を通じ、法人組織の育成や農業用施設の維持・管理を図っていくこととしている。

なお、特別栽培米は、「木島平米」のブランド化の基盤であり、H21年秋から販売を開始したプレミアム商品の売れ行きは、現在好調となっている。

**【平成21年度までの主な成果】**

- 高付加価値型農業の実践 特別栽培米の栽培（当初0.4ha、目標1.1ha、実績2.4ha）
- 担い手への基幹的な農作業委託（当初1.5ha、目標3.0ha、実績3.8ha）